

世田谷村日記

石山修武

三月三日

七時四〇分起床。昨日、長男雄大フロリダより戻る。九時過調布B邸現場。学生三名セルフビルド参加。良く動いていた。三年生位にこの体験は適しているかも知れぬ。十時二〇分現場を去る。十一時二〇分研究室。

三月四日

雪。十時半国分寺岡邸。業者二社とメンテナンス打合わせ。一社は時間間違いでキャンセル。こういふ会社はもう駄目だね。しかし研究室のスタッフが連れて来た会社なんだから何をか言わんやなのである。十五時半迄。十六時過新大久保駅前近江屋にて一息つく。この駅前ソバ屋はかつて、ダツタンソバという希有な味の（と言っても大根おろしと新ソバの組合わせだけのもの）ソバを出しており、死んだ佐藤健によれば、ここは都内有数のソバ屋なんだそうだった。つまりここは佐藤健おすすめのお店である。確かに、翁だとか、一茶庵系だとか、ヤブ系とかのソバグルメ達のこと、つまりソバ通らしきが、ああだ、こうだ言っただけで取っつてソバ屋よりは余程に良い水準なのだ。世田谷村近くの宗柳と似てるのである。マ、それはともかく、最近は良くここを使っている。ソバ屋の一角が打合わせコーナーのようなものになっている。近江家常駐の設計屋みたいなもんだ。ソバ通がおすすめする定番のソバ屋位下らないソバ屋はない。だってソバはソバだろう。せいり一枚五、六百元が一番正しいソバなのだ。それが一枚千円近く、あ

るいはそれ以上なんてのは明らかに、サギなのである。二十一時前、若松氏との相談終了。台北の李祖原と連絡したりで展開力のある打合わせであった。二十一時新宿、京王線車中。今日も何とか無事に過ごせた。

三月五日

雪が残っている。朝突然河野鉄骨の連中が世田谷村に来て工事を始めたので驚いた。しかし今朝は久し振りにゆっくりできていいる。大阪のM氏、広島の本木君他に便り書く。本木君は良くやつているが、新しいモノにはやはりとまどいがあるようだ。綿密に便りをし続けなくてはなるまい。

結局十四時過まで、世田谷村で仕事。午後遅くB邸現場に向かい、その足で高山邸引渡しのお会へ。

三月六日 日曜日

午前中河出書房、宮本常一の原稿を書く。四、五枚迄すすむ。十四時前国分寺Oさん宅。十五時半新宿、喫茶店で原稿書く。十六時過、高島屋上のソバ屋で、社長若松氏と打合わせ。ロシア研究所の件。十八時過終了。世田谷村に戻る。今日中に宮本常一の原稿仕上げなければならぬ。一ノ関ベシーの菅原正二氏に電話入れなくては。

菅原は元気であった。